

日本チーム裏ばなし

スキーオリエンテーリング世界選手権 2009 の舞台裏

日本チームリーダー
酒井佳子

日本チームリーダー酒井佳子が語る。世界選手権日本チームの報告書からこぼれた話。

世界選手権は最終日の男子リレー、堀江選手から田中選手へのエキサイティングなチェンジオーバー、そして3走高橋選手のゴールで最高潮を迎えた。が、このようなレース場面は日本チームのほんの一面に過ぎない。今回は、その陰で繰り広げられた裏話をいくつかご紹介したい。

本来であれば、日本チームが受けた多くのご支援をご紹介し、選手たちの感想を載せるべきところ、これらを報告書に譲ることをお許しいただきたい。

楽しい日本チーム

今回、日本チームに対しては、オフィシャル2名、ワックスマン1名、札幌のスキー仲間1名が大会期間を通してサポートについてくださった。ただ、ほかにも会計や備品調達といった仕事が増山あり、選手それぞれが分担し、責任を持って取り組んだ（だからチームリーダーの私はとても楽であった）。



日本チームはテレインでもバンケットでも優れたパフォーマンスを披露した。高橋善徳（手前）と酒井佳子（後ろ）

ユニークだったのは、柴田選手担当のバンケット出し物係であろう。アイデアが要求される難しい仕事であったが、最終的には「なまはげ」や忍者などが飛び出す出し物に落ち着き、ロン

グ競技終了後から、全員で極秘練習を重ねた。あまりに可笑しくてさっぱり練習にならなかったが・・・。

ちなみに、「なまはげ」には背の高い山田選手と田中選手が扮し、忍者には黒田選手、ふんどし姿の落ち武者には高橋選手が扮したが、いずれも一見の価値がある。

このように、今年のチームは笑いが絶えない一方、競技に関する情報交換や研究にも真面目に取り組む、バランスの取れた楽しいチームだった。

ロシアへお返しのはずが・・・

選手村への一番乗りはエース堀江選手だった。部屋の豪華さに感動したのもつかの間、彼は驚愕の表情を浮かべた。あのロシアチームが隣の部屋にいるのではないかと！

2年前のロシアでの世界選手権、日本チームにあてがわれたのは、工事中で騒音が鳴り響き、エレベーターは止まり、頻繁に断水する6階の部屋であった。お礼にロシアチームにも同じ体験をさせたいと日本チーム一同願っていたのだが・・・。

しかし、次第に我々はロシアチームに同情することになった。今年のロシアチームはワックスマンさえいない状態で、何度も世界チャンピオンになっているエドワード（世界選手権ルスツ・ロング2位）がアメリカチームからスキーワックス用アイロンを借りる姿には哀愁さえ漂っていた。

オリンピック米

米どころ秋田の山田選手の発案で、ルスツに炊飯器を持ち込むことになった。そして堀江選手が提供を受けたオリンピック米（玄米のような米に煎った大豆を混ぜて炊く）をレストランに持ち込み、選手みんなでせっせと食べていた。香ばしくおいしいのだが、毎日3食摂るなら、やはり白米が最高だとチーム一同悟ったのであった。堀江選手はまた、栄養学も伝授され、私たちはそれに基づいた食事をした。詳しくは報告書をご覧ください。

敢闘賞

今回、最後まであきらめずによく頑張った選手を挙げるとすれば、ミドルレース中の高橋美和選手がそれに当たるだろう。

美和選手は悪天候の中、マップホル

ダーを破損してしまったが、片手にマップホルダー、片手にポールを持って滑り続けた。バンケットでその様子がビデオで映し出されると、会場からは拍手が沸いていた。このアクシデント以降、日本チームはデポ（競技中にスキー等を破損した場合に備え、交換用のものを置いておく場所）にマップホルダーも置くことにした。

アイドル

ママさん選手である白鳥選手が、今回は3歳になる長女を連れて参加した。

世界選手権で最も多く写真を撮られた日本人は、間違いなく白鳥さんの長女である。浴衣姿の彼女は大人気、バンケットではアメリカ、フィンランド、カザフスタン・・・と、数カ国の選手と記念写真をとっていた。これを悪用したのが日本のS選手、あこがれの選手が白鳥選手の長女と写真を撮りたがっているのを知り、彼女を連れて行って、ちゃっかり一緒に写っている。

ちなみに、今回、ルスツに来られなかったが、大里選手もママさん選手である。



どこの国でも子供が人気

以上、競技から離れて、ちょっとした裏話を紹介した。各選手の世界選手権に向けた準備やレースの感想については、ぜひ報告書をご覧ください。

（酒井佳子）